福島の怒り 圧殺狙う

天皇の福島訪問 徹底弾劾！

アメリカ帝国主義のイラン侵略戦争を許すな！
戦争突進の日本帝国主義・高市政権打倒！

4･6 天皇福島訪問弾劾闘争

4月6日（月）１４:００　開会
会場　チェンバおおまち　福島市大町4-15
１５：００　デモ出発
主催　３・１１反原発福島行動実行委員会
０９０－９６３２－４４２９（安齋）

核と原発への福島の怒りをなめるな！

原発事故により奪われたものは何一つとして戻ってはきません。「故郷を返せ！人生を返せ！」これが被災地住民の怒りの血叫びです。日本帝国主義は大惨事を引き起こしておきながら、15年目の福島に対して「復興のためには大騒ぎするな」と言い放ち、被災者が直面する過酷な現実や、「なかったと思いたい」という気持ちまで利用して福島の怒りを抑えつけてきました。青年をはじめ福島の私たちにとって原発への怒りは、今まさに勃発する核戦争への怒りであり、帝国主義とスターリン主義打倒の革命に向かってどこまでも解き放つ以外に、決着点はありません。そういう根源的、非和解的な怒りなのです。15年以上にわたり原発事故と被ばくの強制と闘う福島の名をもって、ヒロシマ・ナガサキを繰り返す侵略戦争・核戦争を絶対に許さないということです。

その怒りと闘いを暴力的に圧殺するために４月６、７日、天皇の福島訪問が策動されています。昨年、戦後80年を期して強行された天皇の沖縄、広島、長崎への「慰霊の旅」に続くものです。「慰霊の旅」は、天皇・天皇制が戦争の元凶であったことを塗り隠し、戦争犯罪を闇に葬り、戦没者を「国家のために命を捧げた英霊」へと祭り上げ、戦争への怒りを圧殺するための攻撃でした。帝国主義の延命をかけ、中国侵略戦争・世界戦争を主体的に担うことを決断した高市政権は、天皇制を根幹に据え、国家主義・愛国主義・排外主義をまき散らして自国政府への怒りを「外国人の脅威」や「中国の脅威」に向けさせ、同時に、戦争準備と戦争突入がもたらす貧困・生活苦を強制し、さらに「死」をも「進んで」受け入れさせよとしています。その最先端に、天皇の福島訪問攻撃があるのです。

「この上ない大きな喜びであり、復興・創生に向けて何よりのご支援」（福島県知事・内堀雅雄）などと打ち出される天皇福島訪問は、イラン侵略戦争・中国侵略戦争そして核戦争の時代への突入の中で、福島の怒りを圧殺し、天皇・天皇制イデオロギーの下に全人民をひれ伏せさせ、「侵略戦争の先兵」になることを強制する攻撃なのです。絶対に許してはなりません。

さらに４月29日には、「昭和100年記念式典」を政府主催で開催し、朝鮮・中国―アジア侵略の歴史を全面的に居直り美化し、再び天皇を前面に押し出して中国侵略戦争に突き進もうとしています。この戦争式典を粉砕しましょう。

アメリカ帝国主義のイラン侵略戦争・核戦争とめよう！

3・20 日米戦争会談粉砕デモ 渋谷

同時に確認しなければならないのは、米帝・イスラエルによるイラン侵略・人民虐殺を断じて許すなということです。イランでは３千人以上が虐殺されています。またイスラエルのレバノン侵攻でも100万人が居住地から追いやられ、900人以上が殺されています。ガザ虐殺と完全に一体の、民族解放闘争の根絶を狙う帝国主義侵略戦争に他なりません。

また、イラン侵略戦争が、米帝・イスラエルによる核戦争として爆発する危機を深めています。３月21日、イスラエルはイランのウラン濃縮施設を米軍の「バンカーバスター」で攻撃しました。これに対してイランもイスラエルの核施設へのミサイル攻撃を行いました。攻撃の応酬は「原子力事故」として炸裂す危険性をはらんでいます。イスラエルは約90発の核兵器を保有するとみられ、核戦争は一色即発の危機にあります。米帝・イスラエルによる核戦争を全世界の労働者人民の反戦闘争の爆発で絶対に阻止しなければなりません。

日米侵略同盟粉砕！

日米同盟で米帝・トランプを全面的に支える日帝は、イラン侵略戦争の当事者そのものです。高市はトランプと共にイランを非難しています。米帝の一方的な侵略に対して高市は、「法的評価は差し控える」などと全面支持を表明しています。日米首脳会談（３／19）では「世界に平和と繁栄をもたらすことができるのはトランプだけ」だと、虐殺が行われているときにこう言い放ったのです。トランプと会談し、日米同盟を内外に誇示し、国益のために米帝のイラン侵略戦争を擁護する日帝・高市をイラン・中東人民への血債をかけて打倒しなければなりません。自衛隊のホルムズ海峡派兵を絶対に阻止しなければなりません。日米侵略同盟を粉砕し、日帝のイラン侵略戦争参戦を絶対に阻止しましょう。４・６天皇福島訪問弾劾闘争を一体のものとして闘い抜きましょう。